



# 月花のたより 春号



寒さの中にもやわらかな陽光の暖かさが感じられ、順にほころび咲く椿や梅の花に春の息吹を感じる候となりました。皆様におかれましては、ますますご清祥のことと拝察いたします。芽吹き季節にふさわしく、一同、気持ちを新たに歩みを進めて参りたいと存じますので、本年も宜しくお願い申し上げます。



— 午年に寄せて — 左右を反転した「左馬(ひだりうま)」は、商売繁盛、招福の縁起物とされています。それは「うま」の逆は「ま(舞う)」であり、舞は古来より祝の席で催されたことからお目出度く、福が舞い込むとされるためです。月花麗人社にとって縁の深い舞が大きく関係している左馬の由来についてのお話でした。

## <活動報告>

2月11日(水・祝) 11:45～ 総会および新年会 於：神楽坂ラリアンス

今年の新年会は後援会の皆様、月花麗人社門弟に加え、お家元が長年にわたり事務局長を務められた「終末期を考える市民の会」からもご参加頂き、盛大な合同新年会となりました。総会后、晴れやかな集いにぴったりの気品に満ちたお部屋で一皿ごとに美しいフレンチのコースを楽しみながら、和やかに親睦を深めることが出来ました。恒例の「今年の一文字」発表では、その人の意外な人となり垣間見え会話が弾みました。お家元の一文字は「漲」(みなぎる)。命が、思いが、愛があふれるほどに満ち広がる年にしたいとのこと。皆様と共に実り多き一年を築いていきたいと存じます。



## ～ 歳時記 志洗 語りぐさ ～ 一渡邊家のお正月一

我が家のお雑煮は、大根の輪切りと里芋と油揚げのさっぱりしたものです。  
正月三日の朝は男性が雑煮を作り神様に供えることになっていましたので、  
大晦日に大根と里芋を茹でて下準備をしておきます。



### 【元旦】

今では女性が雑煮を作り男性が雑器(木の神様用のお皿)に大根の輪切り、その上に里芋をのせて家中の神仏 11ヶ所に供えます。神棚への供え物は全て男性が行います。テーブルにおせち、煮物、雑煮、お餅を用意し家族で新年の挨拶を行い祝います。その後、氏神様に初詣、お寺にお年始、お墓参りをします。

【1月2日】 親戚宅のお年始に出掛ける。

【3日】 昔から年始日となるこの日、一族が集まり賑やかに新年を祝います。

【4日】 朝、お寺様が年始にみえる前に外飾りを外します。

【5日】 昔から『六日菜摘むな』と言われていたので5日に野菜の用意をします。

【6日】 六日年越 年越し蕎麦を供え、頂きます。

【7日】 七日正月 七草粥を供え、頂きます。

七草粥には我が家の畑で採れるほうれん草、小松菜、水菜等を細かく刻んで入れます。神棚、荒神様のべ縄を残してお飾りを外します。

【11日】 鏡開き 鏡餅を割ってお汁粉を供え、頂きます。

【14日】 十四日年越 年越し蕎麦を供え、頂きます。

『せいと焼』(地域により『どんと焼』とも云う) 昭和50年頃までは14日に行われて



いました。道祖神に講中が集まり、三又になる櫛の木の枝を選び、それに大きい上新粉のお団子を作り付け、小さく作ったお団子を繭玉や里芋の形に作って小枝に付け、神棚等に飾ります。外したお飾り、古いべ縄、お守り、お札、子供の書き初め等をお焚き上げし無病息災を祈ります。その火で焼いたお団子を他の人と交換し、それぞれの家で持ち帰り皆で分け合って頂きました。道祖神の周りが開発されて『せいと焼き』が行われなくなって神社でのお焚き上げが多くなり、危険な為ゴミに出されるようになったお飾りを見て心苦しく思った主人が神社の責任総代の立場で町内会と話し合い、20年程前より遊水池で復活しました。今では大勢の方が持ち寄って賑やかに行われ、14日近くの日曜日に行われるようになっています。

【15日】小正月 小豆粥を供え、頂きます。

【20日】恵比寿講 恵比寿大黒のお杜を下ろし一升枡の上に置き、うどん、油揚げの汁(つゆ)を供えます。そのお供え物を娘が食べると縁遠くなると伝えられています。

【31日】お棚納め 年越し蕎麦を供え、頂きます。

お神酒すず(徳利の口に飾る紙製の神具、神様が宿る依り代の役割を持つ)、雑器のお蕎麦等を下げて正月の行事は終わります。



【2月1日】(令和8年)初午

朝、赤飯をふかし榊で束ねたお皿を作り、赤飯、油揚げをのせ、お稲荷様に供えます。

【3日】節分 鰯の頭を刺して6ヶ所角ごとに付け豆を煎って一升枡に入れ神棚へ。夕方に家の中、外回り、お稲荷様に『福は内、鬼は外』と言いながら豆を蒔きます。



### 『羽子板 破魔矢』について

男の子が生まれると破魔矢、女の子が生まれると羽子板が嫁の実家から届きます。昔は座敷の床の間に飾っていましたが、最近では玄関に飾って皆様に見て頂くようにしています。こちらも1月31日のお棚納めの日に片付けます。



年末の大そうじ、餅つき、お飾りに続きお正月も、こんなにも行事があることにまず驚くばかりでした。正月は三が日だけではなく、一連の流れの中にあるということ、正月が「点」ではなく「期間」として大切にされていることに初めて気付かされました。一族と地域の無病息災を願う、志洗さんとご家族の静かで力強い祈りを尊く思います。皆さまにおかれましても、健やかな一年とされますよう祈念申し上げます。

紙面の都合上、今年の活動予定は、同封致しました総会資料をご覧くださいませ。

令和8年如月 坂東 志賀太郎